冬に美浦村から
中学生の派遣申し入れ
―先生らの交歓研修で―

姉妹村の茨城県美浦村から六月一日、小・中学校の先生ら九人が交歓研修に本村を訪れました。この先生らの交歓研修は、五十四年以来、四年ぶりの三回目で、一行は美浦村安中小の栗山茂校長を団長に小学校から五人、中学校から三人の先生が参加したものです。

一行は文部省指定道徳教育研究校の横越小学校の実践過程を学習、横越中学校では「学年・学級・教科の指導を通じての総合的な生徒指導」を授業参観するなど、横越村の学校教育をつぶさに見て回りました。

また、今回の来村で美浦村から「今年の冬、中学生三十人を派遣したい」との申し入れがありました。これに対して田中教育長は「中学生の交流は長年の夢であった。是非受け入れたい。また、横中の生徒も美浦に派遣したい」と約束しました。

これで青年団の交流をきっかけに始まった両村の交流も村議、婦人会に発展、さらに今回の中学生交流の話で姉妹村としての交流の輪がいっそう広がることになります。

一時間半毎に魂が抜ける！
夏の交通事故防止運動

いよいよ暑さも本格的となりましたが、この時期には交通事故がたいへん多く発生するのが毎年の例です。

暑さのため、過労や寝不足になりがちですし、注意力も鈍るため、車を運転中に居眠りをしたり、素早い運転操作ができず、重大事故につながるケースが多いわけです。

また、長時間運転を続けるドライバーには、一時間半の間隔で「魂の抜けた状態」が現われると言われますから、一時間に一度は休憩をとる必要があります。

何れにしても、交通事故の大半は、スピードの出し過ぎが最大の原因ですから、この時期に限らず、スピードは、常に控え目にしたいものです。

七月二十一日から八月二十日まで「夏の交通事故防止運動」が実施されますので、ドライバーも歩行者も、交通ルールをしっかりと守り、交通事故のない楽しい夏を過ごしましょう。

初の近郷中学生籠球大会開く
―横中女子が一位に一位―

去る六月五日(日)横越小学校、中学校の両校で、「第一回横越村近郊中学生バスケットボール大会」が村体育協会(会長、曽我廣見)の主催で開催されました。

この大会には、県ナンバーワンといわれている大川谷中男子(山北町)をはじめ七校、女子も白根第一中ほか七校を招待しました。

横越中男子は一・二回戦は順当に勝ったものの決勝戦で大川谷中と対戦し、大川谷中の高さと、スピード、パスワークに一歩およばず苦敗しました。

横越中女子は、一回戦で、初盤に少しもたつきはありましたが、順調に勝ち進み優勝しました。

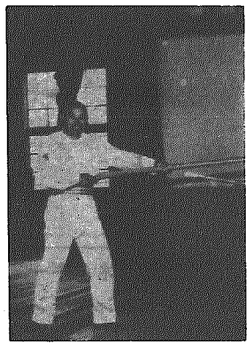
成績は次のとおり。

▼男子
一位　大川谷中
二位　横越中
三位　新発田一中、新津二中

▼女子
一位　横越中
二位　新発田一中
三位　新津一中、白根一中

▲ 大川谷中と横中の試合（女子）

<この人を訪ねて>
銃剣道で心身の鍛練
昨年八段昇位
塚原　宏さん（75才　二本木）



老いて愈々盛ん

〝老いて愈々盛ん〟という言葉がありますが、この言葉にぴったしの人が二本木の塚原宏さんです。

戦前から行っている銃剣道が心身の鍛練に大きく役立ち六十五才で自動車の運転免許を取得。銃剣道八段の腕前で青少年を指導しているハッスルおじいさん。

銃剣道を通じての生活は目をみはるものがあり、村の老人クラブのゲートボール大会では、その機敏な動作と運動神経をかわれいつも審判役をしています。

塚原さんがこの銃剣道を行ったのは戦前からで、軍隊の近衛師団にいて現在東京に住んでいる佐藤さんという人から教わったそうです。

本格的に始めたのは終戦後でマッカーサー指令により一時禁止され、それが解かれた昭和三十三年からでした。

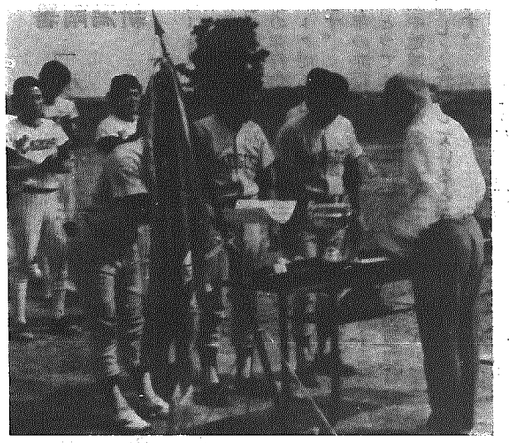
当時は県内でもやる人が少なく十人、二十人という中で昭和四十年従兄の石附さんが村へこられた時に県の銃剣道連盟に加入し、村内の銃剣道の指導に当たられ、昨年、県内に四人しかいない八段を昇位されました。

また塚原さんは、長年に渡り青少年の指導も行ない、教え子が大学や社会に活躍されているそうで、この子供達が夏休みにけいこにこられるのがなによりの楽しみだそうです。

今は、村の小・中学生三十人の指導を毎日曜日の早朝木津分館で行っていますが、青少年の非行問題もこうしたスポーツを通じて「心身を鍛練すれば起こらないですよ」と話してくれました。現に非行に走った少年の親から子供を預かり銃剣道で立ち直らせたという体験もあるそうです。

このファイトでこれからも銃剣道を通じ、青少年や後輩の指導に当たられることでしょう。

早起き野球大会
安定した実力で
横越農協四回目の優勝



▲ 優勝旗と表彰を体育協会々長から受ける農協

五月三十日から開幕した早起き野球大会は、三十三チームが出場し、連日熱戦がくりひろげられました。六月十九日沢海グラウンドで準決勝、決勝が行われ横越農協が横越下コンドルを四対一で下し四度目の優勝を飾りました。

大会は、昨年優勝した沢海好球クラブや二本木クラブ、日東クラブなどの強豪チームが二、三回戦で姿を消し準決勝には、決勝に残った二チームと寿クラブ、ニュータウンズの四チームが残りました。その結果毎回安定した試合はこびを見せた横越農協と、若者を中心にファイトある横越下コンドルが決勝に進出しました。

この試合は、農協、コンドル共にピッチャーが良くお互いに出塁が少なかったが農協は少ないチャンスを盗塁などで積極的に攻め、相手のミスを誘い得点に結びつけました。一方コンドルは、塁へ出たものの盗塁ができず苦戦し、結局経験豊富な農協が優勝しました。

◎優　勝　横越村農協
◎準優勝　横越下コンドル
◎三　位　寿クラブ
　　ニュータウンズ
◎個人賞
最優秀選手賞
　加藤　一範（横越農協）
優秀選手賞
　原　邦夫（横越農協）
敢斗賞
　加藤　慶三（横越下コンドル）

お笑い頭の体そう
知識は人生を楽しくする

二宗、良寛の嫌いな三つ、四苦、五欲など、なぞなぞ集を見てなるほど、と思うこともあり、知識を広めることは結構楽しいもの。

このほど木津の山田正三さんが選んだ頭の体そう一三二問、内容は思想、科学、文学歴史などで、頭の老化防止に役立てば、と友人知已に配布したものです。

まだ若干の余分があるので希望者があればおあげしたいただし、一人一部（無料）私宅にお立ち寄り頂きたいとのことです。

子供ならだれでも親を悲しませたくないという気持ちを持っている

俳優　穂積隆信

しかるほど遠のく

娘は、その時まで、それは真面目な子供でした。

その時――中学一年も終わりに近い三月初めのことです顔をカミソリのようなもので切られて帰ってきました。それからというもの、学校から帰るのが遅くなるし、親を避けるようになりました。わたしばかりか、妻と言葉を交わすことも嫌うようになり、日を追って娘の生活態度がおかしくなってきました。

わたしたち夫婦は、ただ仰天するばかりで、なすすべもなく、とにかく「親として」の面目と世間体を気にして、娘をしかりました。しかし、しかればしかるほど娘は遠のいてきて、わたしと妻はただ娘の行動に振り回されるばかりでした。

子供に非行の兆しが見えると、親は怒ります。すると、子供は逃げる、つまり親を避けるようになりますが、親は逃げる子供を追い詰めてはしかり、ときには暴力を振るうようになる――これでは、親子の関係はこじれるばかりです。

子供にとって家庭は〝港〟

子供にとって、わが家はいつでも安心して停泊できる〝港〟のようなものです。しかし、一日を終えて〝港〟に帰ってきても、頭からボンボンお説教を並べられるばかりでは、面白いはずがありません

〝身も心も安らぐ、世界でいちばん素晴らしい港〟――子供がそう思えるような家庭づくりをすることが、非行防止を考えるうえで、何よりも大切なことではないでしょうか。

子供が自発的に、自ら心を開いて親に話しかけられる、何ごとも相談できるムードづくりを心掛けたいものです。

そのためには、まず、あいさつを忘れない家族関係をつくることです。朝・夕に顔を合せても子供があいさつをしないなら、親のほうから積極的に「おはよう」「おかえり」「おやすみ」と声をかけてください。そして、子供の心が常に家族に向かって開いている――そういう家庭づくりを目指したいものです。

常に変わらぬ愛情を

親は、子供が順調に育っているときは、あれこれと世話をやき一生懸命愛情を注ぎます。

しかし、子供が少し悪さをしたり、非行の芽が出かかったようなとき「こんなに、お前のためを思ってやっているのに、どうして親を裏切るの」などと、悲鳴をあげがちです。が、ちょっと待ってください。肝心なのは子供がどういう状況にあっても、常に変わらぬ愛情を注ぎ続けることではないでしょうか。子供ならだれでも、親を悲しませたくないという気持ちを持っている、そう信じたいのです。親が、常に本気で子供と付き合っていく態度を貫けば、非行の芽など育つはずがないと思います。

子供にとって家庭は〝港〟

子供にとって、わが家はいつでも安心して停泊できる〝港〟のようなものです。しかし、一日を終えて〝港〟に帰ってきても、頭からボンボンお説教を並べられるばかりでは、面白いはずがありません

〝身も心も安らぐ、世界でいちばん素晴らしい港〟――子供がそう思えるような家庭づくりをすることが、非行防止を考えるうえで、何よりも大切なことではないでしょうか。

子供が自発的に、自ら心を